

令和 7 年度看護師職能委員 I 交流会 開催報告

日 時：令和 7 年 9 月 6 日 15 時～16 時 30 分

会 場：岩手看護研修センター 3 階研修ホール

参加者：16 名（支部 10 名、本部 6 名）

テーマ：働き方改革を実現するために、看護現場での課題を考える

看護師職能委員 I 交流会では、委員長から看護師職能 I 病院領域の 2024 年度活動報告及び 2025 年度活動方針について報告したあと、4 つのグループに分かれ 3 つの視点で意見交換を行いました。

まず「現場で困っていること、抱えている問題」について。働き方改革が叫ばれる中、業務は煩雑化するが人員確保が難しい等の意見が出されました。煩雑化する業務の中には患者の高齢化に伴う退院調整、救急対応などがあり、子育て世代、時短勤務者などの増加で時間帯による人手不足、夜勤従事者の不足などが挙げられました。

では、多様な働き方への対応、時間勤務者へ委譲できる業務は何か。バイタルサイン測定、食事介助、清潔ケアなど、ケアを中心とした業務が多く、委譲する対象として看護補助者、派遣看護師の他、クラークの業務拡大やボランティア導入の検討などの意見が挙げられました。また、介護福祉士の採用や、救急救命士を採用し救急現場で活用されていることが話題となりました。

3 つ目として、看護協会の会員増加に向けて取り組んでいること。入職時に看護協会について説明している職場も多くありましたが、入会手続きやキャリアナース、マナブルなどの利用登録に手間がかかり途中であきらめる人もいるため、個人ではなく職場での管理など検討してはどうかなどの意見が出されました。入会費が高いと感じている意見もあり、入会するメリットやアピール方法の検討が必要ではないかと話されました。看護協会「入会のご案内」の YouTube 動画があることを知らない参加者もあり、現場での紹介方法なども工夫する必要があると感じました。

日本看護協会は「看護職の健康と安全が、患者の健康と安全を守る」という考えに立ち、看護職のワーク・ライフ・バランスを推進しています。「看護職のワーク・ライフ・バランス推進ガイドブック」には、今回のテーマの解決につながるヒントとなる情報もあげられています。看護現場での課題は、私たち一人一人の考え方により解決に繋がっていくものと考えます。働き続けられる職場の実現には時間を要するかもしれませんが、交流集会での意見交換は、それぞれの現場での課題解決のヒントに繋がる有意義な会となりました。

（看護師職能委員 I 中村由紀）